国民の森林・国有林
中部森林管理局
〒380-8575長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

広報 中部の森林（もり）

赤沼田天保林でのボランティア作業へ参加いただいた方々

各地で生徒等によるレク森整備が始まる！

故郷のすばらしさを再発見

（P４～６に関連記事）

主な項目

○ 新任幹部挨拶 …… P2
○ 寄稿：第25回森林レクリエーション地域美化活動コンクール
農林水産大臣賞受賞　NPO　木曽ひのきの森 …… P3
○ 各地からのたより …… P4～6
○ シリーズ「森林官からの便り」 …… P6～7
○ シリーズ「ご当地自慢」 …… P8

新任幹部挨拶

新総務企画部長
高信（たかのぶ）　好彦（よしひこ）

七月二日付け人事異動により、中部森林管理局職員に仲間入りさせていただくこととなりました。中部の森林づくりに貢献できればと考えておりますので、どうぞ宜しくお願いします。

実は、中部局管内の勤務は、二度目となります。前橋局に採用されて以来、現場は、長野局、北見分局、九州局の管内に勤務させていただきました。

この勤務を通じて感じることは、中部局管内の植生の豊かさです。王滝署で造林係長の職に就いた時、事業量の多さにびっくりしました。新植面積が百六十ヘクタール、手刈の下刈面積が一千ヘクタール、また、同規模の薬剤散布（フレノック）を実施していました。その他カモシカ防護柵の設置や除伐など多くの事業量があり、予定価格の積算に明け暮れる日々でした。しかし、そのような中でも、請負箇所の完了検査、林況調査、また、収穫調査等で現場に行く機会がありました。そのような機会には、リュックに「ミニきのこ図鑑」を忍ばせていました。きのこを見つけたら立ち止まって観察、またはリュックに入れました。食べられそうなきのこは、家に持ち帰り、試食しました。もちろん、妻は怖がって食べません。翌日、私の体調に異変がないことを確認してから食べていたようです。そこで分かったことは、針葉樹の天然林内にも多くのきのこが自生しているという事実。図鑑に「食用」と記載していないきのこは、食べることに問題はありませんが、美味しくないということ。焼いたり、炒めたりといった単純な料理法でしたので、他に美味しく食べられる料理法があるのかも知れませんが。

また、二年目に入り、天然更新地の実態把握を求められたことから、スケジュールを調整しながら、経営課長、担当区の主任や係員とともに天然更新地の実態調査に足を運びました。プロットを設定し、笹の中を掻き分けながら、稚樹の本数を数えました。そこでは、稚樹の本数の多さにびっくりしました。丈が一メートルを超えているものも相当数あり、安心したことを憶えています。特にヒノキです。また、いたるところで倒木更新を見ることができました。ポドソルの土壌、笹生地、しかもマイナス二十度以上にもなる極寒の山岳地。その生命力に驚かされました。

中部森林管理局管内は、日本海から太平洋を縦断する区域に位置し、その気候風土の違いにより多様な植生を有しております。動植物の宝庫であり、後世に残すべき貴重な財産です。

総務企画部長という職務上、森林整備等の事業に直接タッチすることはできませんが、現場の職員が実践するこれらの取り組みに側面から応援、また、フォローしていきたいと考えています。どうぞ宜しくお願いいたします。

◆高信総務企画部長の略歴

生年月日	昭和三十三年一月八日
本　籍	東京都八王子市
略　歴	茨城県立大子第一高等学校卒（S51・3）
昭51・4	前橋局総務部人事課に採用
後、	前橋局利用課・沼田署、今市署、水上署、林業講習所、長野局王滝署、坂下署、関東農政局構造改善課、林野庁計画課、林産課を経て
平11・8	北海道森林管理局網走署次長（留辺蘂事務所長）
〃13・8	林野庁職員・厚生課企画官
〃16・4	林野庁職員・厚生課課長補佐（給与・手当班担当）
〃18・4	林野庁管理課課長補佐（人事研修班担当）
〃20・12	九州森林管理局熊本森林管理署長
〃23・4	林野庁管理課管理官
〃25・4	林野庁林政課管理官（契約適正化推進担当）
〃25・7	中部森林管理局総務企画部長

お世話になりました

◆前総務企画部長

木村　大助

平成二十二年四月に着任し三年三ケ月お世話になりました。留守番役が多かったので、なかなか現場に出向くことが出来ず各署等の皆さんには失礼しました。

その分休日を利用して家族ともども管内の観光地や温泉をめぐりました。特に木曽駒ヶ岳や白馬、上高地は印象に残っています。また、温泉も豊富で近場から野沢温泉や高山村など楽しませていただきました。趣味のテニスも職員の皆さんと楽しくプレーができました。

業務に関しては、一般会計化への移行もありますが、やはり平成二十二年の重大災害に準ずる二件の災害、数件の不祥事が残念でした。労働災害のない健康で明るい職場作りのためには、指導、注意喚起の繰り返しと職員の自覚をどのように促すかです。また、不祥事についても自分の取ろうとしている行動が、疑惑や不信をもたれないか常に意識して行動することです。国有林野事業も一般会計となりました。これまで以上に、風通しのよい職場作りに努めながら、国民目線で

業務に取組むようお願いします。

また、研修など機会あるごとに言い続けていたことがあります。国有林野の管理・経営は林野庁ではなく現場の林業技術者が担っているということです。現場で培った技術力を十全に発揮し、継承していくことが我々に与えられた使命です。

毎日、地下足袋を履いて現場を歩くことで、森林を見ればその林分内容や成り立ちが分かり、将来に向かってどのように手を加えれば目標とする森林に育つのか、峰筋・沢筋、雨水の通り道を読みながら雨水に耐え長持ちする道をつけるにはどうすればよいか、年度ごとに、どこをまとめて間伐すれば効率的で販売に有利か、崩落した山腹にどのような工種を施せば安定するのかが分かります。このような技術が備わって実践できることが林業技術者であり、我々の存在意義です。特にこれからを担う若い職員の皆さんには、常に現場と向き合いながら、森林・林業のことなら誰にも負けないという自負と誇りとを持って森林・林業再生の推進役になっていただきたいと思います。

最後に、伝統のある中部森林管理局の益々の発展と、職員の皆様への感謝を申し上げ挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。お世話になりました。

農林水産大臣賞受賞
NPO　木曽ひのきの森

「特定非営利活動法人木曽ひのきの森」団体が、一般社団法人全国森林レクリエーション協会主催の第二十五回森林レクリエーション地域美化活動コンクールにおいて、上松町赤沢自然休養林での美化活動等を評価され、農林水産大臣賞を受賞されましたので理事長の横井氏より寄稿をしていただきました。

寄稿
特定非営利活動法人　木曽ひのきの森
理事長　横井　剛　氏

六月六日（木）に東京都において開催された一般社団法人 全国森林レクリエーション協会「第二十五回森林レクリエーション地域美化活動コンクール」受賞団体の表彰式に参加をし、栄えある農林水産大臣賞を受賞してきました。

当日は、全国森林レクリエーション協会会長の三浦雄一郎さんが史上最高齢（八十歳）でのエベレスト登頂直後ということで出席できなかったため、お会いすることができなく少々残念でした。

私たち「NPO木曽ひのきの森」は赤沢自然休養林で実施していた活動をベースに、平成十六年十一月に設立しました。会員三十六名と賛助会員十三名で構成され、森林資源の保護や森林の楽しみ方、木曽の交通を支えた森林鉄道の案内などを行うことを目的として、赤沢自然休養林のガイド活動、植物の研究、保護活動、遊歩道の整備、自然保護の啓発活動を行っています。

現在は、木曽森林管理署等と協働で、犬山中学校の森林教室をはじめとした森林の保護啓発活動、木材チップ舗装実施ボランティアの活動、赤沢自然休養林内の歩道の清掃や整備活動、外来種の除去作業等を行っています。

横井氏の受賞挨拶の様子

赤沢自然休養林の入園者数は年間約十万人の来園者があり、昨年（平成二十四年）には赤沢自然休養林の入園者数が過去最高の十四万人を記録しました。

来園者の方からは「この天然林を見ていると時間がたつのを忘れてしまう。」「来年もここに来て植物の開花をもう一度見たい。」といった声が聞かれています。

こういった来園者の声を大事にし、多くの人が赤沢自然休養林に訪れやすいように、日頃から自分たちができることを行っていきたいところです。

今回の受賞は、今行っている活動が評価されたものですが、「継続は力なり」というように今後も現在の活動を継続していきたいと思います。

最後になりますが、中部森林管理局及び木曽森林管理署、上松町等の指導、助言をいただきながら今後も活動していきますので、今後も当会の活動のご支援及びご協力をいただきますようお願いします。

受賞者記念撮影（右から二番目が横井氏）

各地からのたより

住まいの耐震博覧会に特別展示

［名古屋事務所］住宅の耐震化をキーワードに、木材・建材・住宅設備機器などを紹介する総合展示会「住まいの耐震博覧会」が、六月二十二日、二十三日に、名古屋市のポートメッセ名古屋で開催されました。

木造住宅骨組み展示

中部森林管理局では古い文献や写真、映像などのデジタルアーカイブ化を進めており、明治三十年代から昭和初期の林業の写真を拡大したパネルを作成したことから、博覧会に木曽川での古い伐木運材の写真を展示していただきました。

博覧会では、木材利用ポイントが始まることから、「流域材で地産地消の家づくり」をテーマにした「木と住まいのパビリオン」があり、木曽川流域をイメージした展示となっていました。

パビリオンに入るとまず、御嶽山をイメージしたモニュメントの出迎えがあり、その奥には木造住宅の実物大の家の骨組み展示がされていました。

中部森林管理局から提供した写真は、「木曽川と流域材の運材の歴史展」コーナーに置かれ、御嶽山の麓の森林から木材が伐倒され、木曽川を下り、貯木場で貯材されるまでの一連の古い写真が展示されました。併せて、伊勢湾台風後の復興材を輸送する様子の写真も展示され、来場者からも好評を得ていました。

写真パネル展示

当日、会場には三万人以上の来場者があり、木造建築の良さ・木のぬくもりにふれる一時となったようです。

写真パネル展示

名地で生徒等によるレク森整備が始まる！

赤沼田天保林でボランティア作業

［岐阜署］六月七日、岐阜県下呂市小坂町赤沼田国有林にある赤沼田（あかんた）の天保林（てんぽりん）において地元小坂中学校の生徒によるレク森の遊歩道整備が行われました。これはグリーンウェイブ２０１３協賛事業として、当署をはじめ地元小坂町の小坂中学校、一般社団法人名古屋林業土木協会小坂支部、振興事務所、森林組合、観光協会、商工会、ＮＰＯ法人飛騨小坂２００滝、小坂みどりの風など九つの関係組織・団体の協働によるボランティア作業のイベントとして開催したものです。

赤沼田天保林は、飛騨の天領林政下で森林資源の枯渇に対処するため、公役造林を課し天保十三年（一八四二年）に植栽が始まったとされ、国内でも例の少ない高齢級の造林地であり、歴史的・学術的に価値が高く、ヒノキ植物群落保護林に指定されています。林内には観察のために歩道や案内板が設置されており、森の巨人たち百選のひとつ「ヒノキの大樹」（樹高三十五メートル、幹周三・五メートル）がそびえています。

午前中は林業土木協会の会員、森林組合を主体に約五十名が参加し、遊歩道の崩土除去、丸太土留の作設や、草刈りなどの作業を行いました。

午後は、小坂中学校の一年生十七名も加わり、長口署長及び林業土木協会小坂支部梅田支部長から天保林の説明を含め歓迎の挨拶を行った後、影山地域林政調整官による森林教室を行いました。森林教室では仕掛けを凝らしたパネルや写真を使用するとともに、生徒たちが修学旅行で見学したという法隆寺の柱（使われた木の大きさ）と天保の大ヒノキの大き

さをロープで輪を作り比べて見る工夫がされ、生徒たちは終始笑顔の中にも真剣なまなざしを注いでいました。

森林教室で説明を受ける生徒

その後生徒たちは三班に分かれて、案内標識の設置や、説明板の清掃を行いました。途中、滝や大ヒノキに出会い、歓声を上げていました。

作業終了後、小坂町森林組合の住組合長から「今年は伊勢神宮の式年遷宮の年、小坂の森を神宮に使われるような立派な木に育てましょう。」との締めくくりの挨拶がありました。

後日生徒から、当署に「森林の良さ、小坂の自然の良さを少しでも広め、木を使って、買って、値段を上げ、山の手入れをできるようにしたい」との感想がよせられました。

今回のイベントは、地元のケーブルテレビで放送されたことなどから、小坂町内でも話題になり、「地域がまとまればできるものですね。」との声も聞かれました。

また、地域の九つの組織・団体が参加し、協働することの意義を深めるイベントにもなりました。

美女平で小学生による レク森の整備

天保の大ヒノキの太さを体感する生徒

【富山署】六月二十五日（火）に立山町美女平（ブナ坂国有林）において、地元の立山小学校六年生二十五名により、美女平風致探勝林内の歩道整備等を実施しました。

これは、次代を担う若者たちが、レクリエーションの森における遊歩道整備などの作業を通じて、自分たちの故郷のすばらしさを再発見するとともに、森林の多面的な機能や自然環境の保護と利用について学ぶことを目的に行うものです。

チップ敷をがんばる生徒

実施した場所は、立山黒部アルペンルート（天空ロード）の標高約一千メートルのレク森内の遊歩道で、歩道を流れる表流水等により立山スギの根系部が洗堀されている箇所に、地元産の間伐材の端材をチップにしたものを生徒が運搬し、敷設しました。

チップ敷設後は、美女平風致探勝林内において、樹齢数百年以上と言われている立山スギやブナの森の観察会と、森林の諸機能についての森林教室を開催しました。

また、同レク森においては立山地区国有林野保護管理協議会（立山地区の山小屋、関連企業等で構成）もチップ敷設を実施しています。

新たに二校で森林教室を実施

歩道整備をがんばった生徒たち

【東濃署】六月二十八日、中津川市立付知南小学校三年生の森林教室及び七月二日には、付知中学校一年生の森林教室を開催しました。

付知南小学校三年生は今年度「付知町のじまん」というテーマで総合学習を行っています。その中で付知町地域はヒノキが有名であるということがわかったようで、今回隣接している当署へ付知町の森林・林業、ヒノキのことなどについて学習がしたいと依頼があり実施したものです。

三、四時限目を使い当署会議室において鈴木森林整備官（森林ふれあい担当）から森林の役割、付知町の森林・林業、ヒノキについて説明を行いました。生徒

からは、「ヒノキの種を初めて見た」「近くの森にこんなに大きいヒノキがあるなんてすごい」など目を輝かせながら歓声をあげていました。

付知小学校の森林教室

付知中学校では、地域の協力のもとに育林作業や木工教室を開催しており、今回地域の森林や林業に、より興味を持たせたいとの要請があり実施したものです。

一学年の二クラスで一時限ずつに分け枝澤署長より日本と世界の森林の現状、地域と森林の様々な結びつきなどについて説明を行いました。

また、枝澤署長が以前勤務していたケニア共和国の森林事情や植林協力の様子などについて日本との違いを写真を用いてわかりやすく説明すると生徒たちは普段聞くことのできない海外の話に非常に興味を持った様子で聞いていました。

付知中学校の森林教室

当署ではこれまでも付知町内にある二つの小学校の五年生を対象に森林教室を行っており、また、中学校生の職場見学・体験の受け入れをするなど地元小中学生と交流がありました。新たな教室を実施したことにより今後、森林・林業・木材産業に一層関心を持ってもらえるのではないかと期待しています。

低コスト森林施業を実現するため林業専用道技術者育成の研修を実施

［森林技術・支援センター］

平成二十五年度第一回目の林業専用道技術者研修が七月八日から十日までの三日間、下呂温泉旅館会館及び飛騨署管内の鈍引沢（どんびきざわ）国有林内の既設林業専用道等において実施されました。中部地方の六県から県、市町村、森林組合、国有林の職員など二十名の方が受講しました。

森林・林業の再生に向けた低コスト森林施業の実現のためには、森林へのアクセス性、耐久性、経済性に優れた林業専用道の開設が急務となっています。また、これに森林作業道を効果的に配置することで、高性能林業機械により低コストで木材を搬出することが可能となり、地域振興にも大きく寄与することが期待されているところです。

中島下呂副市長の挨拶

このことから、林業専用道の開設等を担う技術者育成のため研修を実施しているところであり、今後、林業専用道規格の路線延長が進むことを期待しています。この研修は七月から十月の間に四回実施することとしています。

現地研修

シリーズ「森林官からの便り」

［飛騨署町方森林事務所］　鈴木良和　森林官

町方森林事務所は岐阜県高山市の東に位置する丹生川町に所在しています。

丹生川町は東西三十二キロメートル、南北十二キロメートルにわたる農山村地域で、東西へと流れる神通川水系（小八賀川と荒城川）によって中央部から二分され、西部は高山盆地の一部を成し、東部は日本の屋根ともいえる北アルプスに続く山岳地帯となっています。

当事務所が管轄する国有林は、金山・折敷地・デンガク・乗鞍の四国有林、

約四千七百ヘクタールとなっており、丹生川町の森林の内、二十一パーセントを占めています。

赴任した四月にはまだ林道が雪で覆われていましたが、現在は山も雪解けし、山見のしやすい気候となりました。

請負事業も動き始め、今年は第五次計画の予備編成の年であることから、現在は次期計画に向けた林況の確認が急務となっていますが、現場職員の協力を得ながら計画的に進めていく予定です。

打合せの様子（中央が森林官）

当森林事務所のシンボルともなっている乗鞍国有林では、五月十五日に「乗鞍岳の山開き祭」が行われました。

乗鞍岳は中部山岳国立公園の最南端に位置しており、一万年から七千年前の火山活動により形成された二十三もの峰々が緩やかな曲線を描き、その頂上では標高三千二十六メートルの剣ヶ峰が雄大な姿を讃えています。

乗鞍岳

高山市から遠望すると、稜線が馬の背に似ていることから乗鞍の名がついたと言われ、その背に沿って岐阜県側を平湯峠から畳平（標高二千七百七メートル）まで乗鞍スカイラインが通じています。

現在はマイカー規制がされており、一般車での通行は制限されていますが、乗鞍岳は飛騨地域における重要な観光資源の一つであり、一シーズンの観光客数は推計約二十万人に達しています。

標高二千五百メートルを超える高山地帯はハイマツやコマクサ、ハクサンイチゲをはじめとした高山性植物の宝庫であり、特別天然記念物のライチョウやオコジョが生息するなど、貴重な自然が広がっています。そうした貴重な動植物の保護や観光客の安全は、県や市職員などの関係機関や、当署のグリーンサポートスタッフ「GSS」（臨時雇用による森林パトロール員）の連携による自然保護活動等により保たれています。

また、今年は「乗鞍スカイライン開通四十周年記念」の年でもあり、様々なイベントが計画されるなど、観光客の増加が予想されることから、より安全に配慮した巡視、自然保護活動を行いたいと思います。

当森林事務所管内では、乗鞍岳、五色ヶ原などの貴重な地元の観光資源となっている森林から、森林整備などにより森林の公益的機能を発揮させる森林まで、多岐にわたる森林の管理に努めなければなりません。それぞれの森林機能を十分に発揮できるよう、地道ながらも一生懸命頑張っていきたいと思います。

ＧＳＳと乗鞍で（右が森林官）

人のうごき

中部森林管理局人事　**六月三十日付**

▽退職（東濃森林管理署署付）
早川　由香

林野庁人事（抄）　**七月二日付**

▽中部森林管理局総務企画部長
高信　好彦

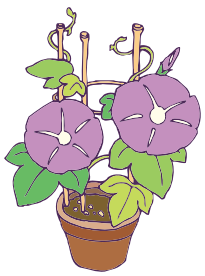
▽林野庁国有林野部管理課管理官（人事管理担当）
木村　大助

行事・会議等の予定

◎**夏休み子供ふれあいデー**
7月31日　中部局

◎**森林モニター現地視察**
8月1日　飛騨署管内

◎**関東中部地区治山林道研究発表会**
8月28日　岐阜市



ご当地自慢

長野県伊那市編

3

南信森林管理署

◆天下第一の桜　【高遠城址公園】

明治四年（一八七一年）、廃藩置県となり翌五年、高遠城は取り壊されました。その後城址は公園となりましたが、管理する者もなく荒れるままになっていました。見かねた旧藩士たちが、明治八年に、馬場の桜を城跡に移植したのが、現在の桜の名所「高遠城址公園」の始まりです。

かつて馬の姿が沢山の桜の花に隠れたという高遠藩の桜の馬場。その在りし日の姿を再現するかのように、約千五百本以上の桜が見られ、古くから「天下第一の桜」と称されて全国的に有名で、「さくら名所百選」にも選ばれています。

高遠桜

高遠の桜は、タカトオコヒガンザクラで、ソメイヨシノより小ぶりで赤みのある花を咲かせ、開花時には公園一帯が淡いピンクに染まり「天下第一の桜」にふさわしい光景です。また、夜のライトアップされた桜の幻想的な美しさも忘れ難いものになります。

伊那市内には「高遠城址公園」のほかに「三峰川桜堤防」、「春日公園」、「花の丘公園」、「勝間のしだれ桜」など桜の名所があります。

高遠夜桜

◆信州そば発祥の地　【伊那市】

奈良時代の初め、修験道の開祖「役小角」は荒行の聖地である駒ヶ岳を目指しました。途中、伊那の内の萱で村人たちに温かくもてなされた役小角は、お礼として厳しい気候条件でも栽培でき、栄養価の高い「そばの実」を村人たちに贈りました。村人たちは、このそばを大切に育て、やがて信州全体に広がり、以来、内の萱は信州そば発祥の地といわれ、今でも毎年十月には「行者そば祭り」が盛大に開催されます。行者そばは、地粉で打った手打ちそばを、大根おろしの汁に焼き味噌を溶き入れた「辛つゆ」で食べるものをいいます。

役小角の時代から九百年の時を経た江戸時代の初め、高遠藩主の保科正之は辛味大根と焼き味噌で食べる蕎麦切りを高遠藩のおもてなし料理とし、将軍にも献上していました。殿様も庶民も愛でた「高遠そば」は、後に会津藩の「藩祖」となった保科正之によって、福島県各地に「高遠蕎麦」として伝えられ、日本の名蕎麦に数えられています。

高遠城址で十一月に開催される秋祭りでは、復活した辛味大根とともに新そばが味わえます。また、市内に点在するそば処では、いつでも地粉で打ったそばを味わうことができます。

高遠そば

◆癒しのパワースポット【ゼロ磁場　分杭峠（ぶんぐいとうげ）】

日本最大の断層「中央構造線」が縦貫する分杭峠は、ゼロ磁場としても近年有名となり多くの観光客が訪れています。

ゼロ磁場とは、中国の気功師、張志祥氏により発見された場所で、「人が幸せになれる場所」ともいわれ、心身の癒しを求め訪れる方が多く、ガン、腰痛、膝痛、肩こり、頭痛や生活習慣病などの治癒効果（個人の意見として）があると評判となっています。

分杭峠

所在地
（高遠城址公園）長野県伊那市高遠町
（分杭峠）長野県伊那市長谷

アクセス
（高遠城址公園）
［公共交通機関］
JR飯田線伊那市駅下車、バス高遠駅　約二五分、徒歩約一五分
［自家用車］
中央自動車道伊那ICより約三十分
（分杭峠）
［公共交通機関］
JR飯田線伊那市駅下車、バス高遠駅　約二五分、シャトルバス約十五分
［自家用車］
中央自動車道伊那ICより
約四十分、シャトルバス約十五分

写真提供：伊那市観光協会